

「ITスキル標準V2 2006」の公表について

独立行政法人情報処理推進機構（略称：IPA、理事長：藤原 武平太）は、「ITスキル標準V2」の2006年度の改訂版となる「ITスキル標準V2 2006」を2006年10月31日、ITスキル標準センターのWebサイト上（<http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/>）で公表しました。

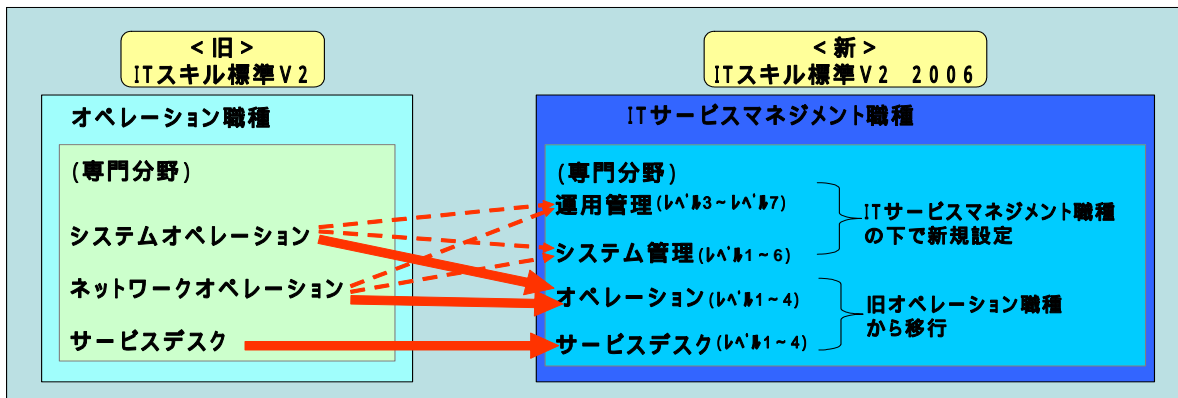
ITスキル標準は本年4月に「ITスキル標準V2」としてバージョンアップを行いました。その際、将来に向けたITスキル標準の見直しは毎年定期的に行うとの方針が決定されており、今回の「ITスキル標準V2 2006」の公表は当該改訂方針に基づく初めての定期改訂版になります。

【今回の改善点】

オペレーション職種を見直し「ITサービスマネジメント職種」に変更

IT技術の進化に伴ってビジネスのシステムへの依存度が増加してきており、システムの安定稼働の維持、システム運用の重要性が急速に高まっています。このような状況を背景にシステム運用に関わるメソドロジーや標準的なフレームワークが整備されてきており、ITスキル標準としても、オペレーション職種についてシステム運用全般を担う職種として内容を充実する観点から見直しを図りました。それに伴い職種の名称をシステム運用に関する国際標準であるISO20000のベースにもなっていたITIL(*)等を参考にしながら「ITサービスマネジメント」に改めました。

新旧の対応関係は下図のとおりです。



主たる移行を実線、部分的な移行を点線で表す。

(*)ITIL は英国政府商務局の登録商標および共同体登録商標です。

【ITサービスマネジメント職種の説明】

ITサービスマネジメント職種は、システム運用関連技術を活用し、サービスレベルの設計を行い顧客と合意されたサービスレベルアグリーメント（SLA）に基づき、システム運用リスク管理の側面からシステム全体の安定稼働に責任を持つ。システム全体の安定稼働を目指し、安全性、信頼性、効率性を追及する。またサービスレベルの維持、向上を図るためにシステム稼働情報の収集と分析を実施し、システム基盤管理も含めた運用管理を行う。IT投資の局面においては、開発から運用、保守までの領域で主に以下のような活動を行う。

- 開発：運用可能性の審査、本番移行計画の審査
- 運用/保守：システム運用の計画、実行、監視、および障害対応管理

当該職種は、以下の専門分野に区分される。

運用管理

ITサービスマネジメントの全般に関わり、リスクに対する予防処置を施し、サービスを安定提供するための各プロセスを実施することを担う。また、その実施に関わる関係者を指揮し、サービスレベル管理をはじめとするサービス提供の責任を担う。上位レベルの技術者は運用管理の責任者として、顧客に対してITサービスマネジメントの統括責任を負う。

また、運用ガイドラインの策定、およびその遵守の徹底を図る。

システム管理

共通運用基盤と位置づけられる部分について、IT基盤の設計・構築・維持管理を担う。（IT基盤とは、ネットワーク/LAN、運用管理ツール、メインフレームおよびサーバのハード/OS/ミドルウェア、アプライアンス製品）

また、IT基盤に関するシステム受入れ基準を策定する。

オペレーション

ITシステムを安定稼働させるため、定められた手順に沿って、ITシステムの監視・操作・状況連絡を実施する。実施内容は全て記録・保管する。

サービスデスク

対象となるITサービスのユーザからの問い合わせ・申請等に対して窓口機能を担う。対応内容については全て記録・保管する。

なお、システム運用のあり方が進化する中、ITサービスマネジメント職種においては、システム運用の潮流を見極めながら、標準的なメソドロジーやフレームワークの動向も適宜反映しつつ、引き続き内容の充実を図っていきます。また、他の職種との関係についても引き続き検討を進めITスキル標準全体としてもシステム運用領域の整理に関する検討を進めていきます。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 本件に関するお問い合わせ
独立行政法人 情報処理推進機構 ITスキル標準センター 島田/新井
Tel:03-5978-7544 Fax:03-5978-7516■ 報道関係からのお問い合わせ先
独立行政法人 情報処理推進機構 戦略企画部広報グループ 横山/佐々木
Tel:03-5978-7503 Fax:03-5978-7510 |
|--|